

雑司が谷旧宣教師館だより

第 33・34 合併号
2005 年 1 月 15 日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷 1-25-5 Tel/Fax (03) 3985-4081

雑司が谷旧宣教師館

「住民保存運動経緯報告書」

作成しました

豊島区立雑司が谷旧宣教師館として開館した旧マッケ-レブ邸は、1907（明治40）年に建てられた区内最古の木造洋風建築です。

1982（昭和57）年8月、旧マッケ-レブ邸の土地家屋は不動産会社に売却され、マンション建築計画が公示されました。同年9月、地元雑司が谷一丁目町会はマンション建設に対して要求運動を開始します。

運動は進行するにつれて、旧マッケ-レブ邸が明治期の近代建築であること及びアメリカ人宣教師の居宅であり日曜学校の拠点であったことから、明治の建物が失われていくことを惜しむ地元住民はもとより日本建築学会、アメリカ大使館、キリスト教系の教育機関の応援を得て建物保存運動へと転換します。

調査の結果、これが貴重な建物であり、修復すれば永く保存していけることが判明したので、同年12月、豊島区による建物の購入・保存という形で運動は終息しました。



その後、豊島区は旧マッケ-レブ邸を文化財としての価値を損なうことなく、特徴を活かす施設として区民に開放することを前提として、旧マッケ-レブ邸保存調査委員会を設立し、建物調査（*1）及び保存修理工事（*2）を行い、1989（平成元）年に一般公開されました。

2003（平成15）年6月、保存運動の中核を担った主婦のひとり前島郁子さんより、保存陳情書名簿の写しを含む1982（昭和57）年9月から12月までの四ヶ月間の保存運動の全容を示す当時のメモ書きによる記録を寄贈していただきました。

これまで豊島区取得後の資料は充実していたものの、運動期間中の経緯を示す資料が皆無であったため大変貴重な資料となります。寄贈資料を「住民保存運動経緯報告書」（*3）として位置づけ、建物の保存と並行して地域資料として保存活用を図るために住民運動に携わった人々に聞き取り調査を行いました。

保存運動の経緯に止まらず、マッケ-レブの開いた日曜学校（*4）や幼稚園（*5）にまつわる思い出、建物への思いや住民の結束そして保存にこぎつけた秘訣などさまざまなお話を伺うことができました。建物保存という先駆的事業を成し遂げた住民パワーの底力をご紹介します。

住民保存運動聞き取り調査①

参加者

Mさん

（雑司ヶ谷幼稚園卒園生・雑司が谷在住）

Iさん（同上）

Tさん（雑司ヶ谷幼稚園関係者）

2004年7月28日実施

司会： 昨年、旧宣教師館の保存の経緯を逐一記した貴重な資料を寄贈していただきました。メモ書きだった資料を時系列に一覧表に作成してみましたが、適切かどうかを見ていただきたいということと、保存運動期間の詳細について実際にたずさわった方にお伺いしたいと思いお集まりいただきました。よろしくお願いたします。

〈運動の担い手は女性たち〉

M: 住民運動と言っても、始めたのはほとんど女性なのよね。男の人たちは「残すなんてそんなの無理だよ」って。

I: そうよね。議員さんのところへいったでしょ。副島健さんも私達を馬鹿扱いされましたね。「そんなの残りっこないよ」と。社会党の広田さんには、「残りっこない。そんなのやっても無駄だ」って、両方に言われたわね。私達も諦めなければと思いながらアメリカ大使館に行ったりしてね。息子が関係していたので紹介状を書いてもらっていきました。

M: そしたらお会いしたのが牧師さんの息子さんだったのね。偶然に。そうじゃない方がお会いするはずだったのですがお留守でね。

I: 牧師さんの息子さんが豊島区のほうにすぐ照会してくださって、建築課長さんに大使館の封筒で手紙がいったしまったのね。

M: そしたら豊島区はアメリカと喧嘩するわけにいかないからって。



〈マンション建築反対から保存運動へ〉

司会 今日、マンション建築計画告示の立て札を写した写真をいただいたのですが、初めはマンション建設説明会だったのですか。

I: そう。

M: I建設が買ったこと、私達は知らなかったのよね。この立て札がでたのはいつだったのかしらね。

司会 8月6日って書いてありますね。初めの頃はマンションの階数を減らすことや敷地内の樹木の保存などを要望していますね。

I: そうですね。ここに幼稚園があるから高い建物を建てられたのでは困ると言いましたね。

M: 5階建てのマンション建設は困るということで署名運動を始めたわけですね。Iさんはたくさんとってくださいましたね。そうしたら近所の方が、「なんで保存運動にしない

の」と皆さんおっしゃったの。「私たちの懐かしいところなんだからね困る」って、住民の方からいわれたから、そんなら私は保存したほうがもちろん嬉しいというわけで保存運動にしました。

司会 20年も前に、この地域の人々は古い建物を保存するという意識があったということですよ。

M: ありました。それにみんなここで遊んだりいろんな思い出をもっていますからね。

I: あなた建築学会の前野さん(*6)のこと呼んで来て下さったじゃない。「見てもらいたい」って言ってね。それであの先生がみて、「やっぱり運動したほうがいい」って言ってくださったのね。

M:「これはだめ。壊しちゃだめだ。」ってね。

I: いよいよ本格的になっていったのよね。建築学会のほうも応援してくださったのよね。

M: 建築学会は前にちゃんと調べてあって二重丸付の保存したい建物だったようです。だけど建築学会のほうは保存してくださいって言えないですよ。お金がある訳じゃないから。だから建物の持ち主に向かって、「これは大事にしてくださいよ」というラブレター作戦というのをなされたんです。

I: ここに関してはみんなが同じ意見だったから豊島区に働きかけた訳よね。都もお金を出してくださったんでしょ。都と区と両方で。

M: それはね、原さんが(文兵衛)区のほうでそんなにお金がないといったら、それじゃ都のほうに借りてあげるっていったの。都のほうに働きかけてくださったの。だから私たちは恵まれているのね。

I: お家に押しかけていったわね。原文兵衛さんのところにもいった覚えがある。ここにありますね。Mさんと私。もう2~3人いったような気がする。奥様と会いました。

M: その時点では原さんもちょっと無理かもしれないという気持ちおありだったのね。

I: 一生懸命しましょうと言って下さった。

〈建築学会の応援〉

司会 「千葉大の坂本勝比古先生より電話」との記述があり内容が不明ですが、覚えていらっしゃるでしょうか。11月17日です。

M 山口廣先生(*7)や建築学会は元々旧マッケ-レブ邸を大事にしてくださいただけと、坂本先生と前野先生も大変力をいれてくださった。

司会 前野先生は運動をする前にここにお見えになっていますね。それはいつごろですか。

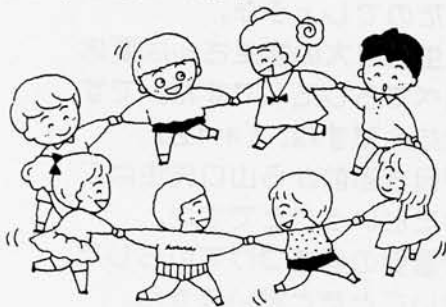
M 10月初めのころかしら。よく覚えていません。

| わりあい早いころよね。

司会 前野先生から「この建物は価値があるから保存運動をしたほうがいいですよ」というお話は皆さんにもあったのですか。

| お宅でちょっと集まったとき言ってくださったわね。

M その頃はどこへ行っても「だめだ」と言われていたので「元気だしなさい」といわれました。私たちは、何をやらたらいいのかわからなくて「やったことがないって」言ったら、「じゃあ私のところに来なさい」と仰って車で先生のところに連れて行ってくださって。そしてこんな大きな袋を持ってきて、いろんな資料が入っていて、「これ貸してあげますから読みなさい」って。初めて会った人にそんな大事なものを渡しちゃっていいのかしらと思って、「それでは私一筆かきましょか」っていったら、「そんなもの要りません」といわれ、車で送ってきてくださいました。私はその時からすごーい明るいついていうか、それまで皆だめだだめだというんですものね。つまり保存運動はどうやってやるか、その資料を貸して下さったのです。



〈署名運動の開始〉

| 前野先生は、「とにかく署名運動しなさい。たくさん集まれば、集まるほどいい」って仰いましたね。

M |さん500位すぐ集められて。

司会 署名簿もありますよね。

| 一週間かそこらで大騒動でしたね。全部で1000人ぐらいしたんじゃないかしら。署

名は。私本当は全部複写して置いておいたの。そしたらこんど大阪のほうで運動をするというので「じゃ全部上げます。返さなくていいわよ。うちのほう終わったから」といって、前野先生じゃないけどみんな送ってしまったの。

M 大学の先生は住民を案外下にみるけれど前野先生は、「一番大事なのはそこに住んでいる住民だ」、そういう考えなんですよ。だから私たちのことを随分励ましたりして下さったわね。また前野先生は、「町並み保存(*8)の全国大会があるからあなたそこに行け」って、九州臼杵全国大会があるからしゃべんなさいといわれて、みんな嫌だ嫌だといって。町並み保存連盟に喋った記録があります。みなさんが共感して下さったんです。前野先生は人を使うのがお上手で、出来ないっていてもやらせてしまう。

ここがマンションにならなかったのは雑司ヶ谷の住民の意思があったからですよ。



〈雑司ヶ谷という土地柄〉

司会 ここは人的資源に恵まれていますね。

M それはいえますね。いろんな種類の職業の方が住んでいますね。うちもよそからきた住民なのね。お宅は土着かな。江戸時代からいらっしゃるんでしょう。

| 墓地の中でしたから。墓地ができるのでここに出てきたのでかなり古い。

M 私の両親が越してきました。

| 教育のために。

M そういう人達たちが沢山いるわけよ。

| 教育熱心な方たちがね。学者が多かったわね。諸橋さん(*9)って方。広辞林なんかを作られた。すぐ傍に住んでいらして私お習字を習いに行ってたわ。新潟のほうに疎開なさり、あちらに諸橋先生の博物館が作られたって新聞にでていたわ。

M 秋田雨雀(*10)はどの辺にいらしたの。

司会 鬼子母神の大西神社の裏手、本納寺のあたりです。

M このあたりは寺町ですものね。それに大正の初めの頃には電車も開通し、本浄寺のあたりも住宅地になっていたんですよ。私の父のようなサラリーマンはその頃から移ってき

ていますね。

マッケーレブさんは、ここでトウモロコシなんか作っていたけれど、農業をやろうと思っていた訳じゃなくてアメリカで農民の出身だから、自分の家の食べ物を自分で作っていただけですね。だからその頃は日本人と生活が違っていたので随分と変わったおじいさんと思われていました。変わっていましたよね。

司会 ここにマンションを建てられたら困っていることは地域の皆さんの意向だったのでしょうか。

Ⅰ 初めはそうです。ここに5~6階のマンションが建つことに反対でした。

M Ⅰさんはオピニオンリーダーだから、「あそこの先生がそう言うなら」っていうことがあるわね。そういうところあるのよ、雑司ヶ谷は。誰かが言うと「ああそうかな」って。それで聞きにくる方もあるわね。

Ⅰ 署名運動一軒一軒全部歩いてまわって。

M 普段からのお付き合いがなかったら全然だめですよ。

Ⅰ 全然知らない方だったらしてくださらないわね。みな信頼してくださる間柄だから。

〈マスコミが味方に〉

M そうよ。それと何と言っても建築学会はここが大事だから残したかった。それが有難いですね。それからマスコミも初めから私たちの味方だったことですね。

Ⅰ そう誰かが新聞社に電話しろと言ったわ。

M 前野先生よ。

司会 前野先生がかなり入れ知恵されていますね。

M そう。自分の知っている新聞記者を紹介してくださって。建築史がご専門ですから。

〈運動中思っていたこと〉

司会 みなさん運動の渦中にいるときどんな思いでしたか。たとえばすごいことをしているとか。

Ⅰ すごいことしているとは思わなかったけれどとにかくこの建物を残したいという思いは強かったです。

M この建物は文化センターですよ。歴史がある。

司会 その時からそう思っていたのですか。

M 残せるとは思っていなかったんですよ。

だから男の人なんかは「ばかだなあ。残せるわけじゃないじゃないか」と言っていましたし。

Ⅰ それが展開していったね。

M だけどだめかもしれないけどだめでもととってね、お互いに励ましあってね。短期間だから出来たのね。毎日毎日。

Ⅰ アメリカ大使館も動いてくれたからね。

M そうそう。それで朝日新聞も、「明治の洋館危うし」(*11)というタイトルで一番上にだしてくれて、だから区役所なんか堪えたみたい。

Ⅰ こっちもそんなに大事なものだっただけなんて驚いたり。



M 都電の側におっきな洋館があった。それは壊れちゃったのね。どういうわけだか。

司会 壊れちゃったのですか。

M 良く知らないけれど、あっちのほう而立派だった。

Ⅰ 家自体はね。こっちはみんなの注目の的だったわね。向こうは知らない人が多いから。だから運動が起きなかったわね。清立院のしたのほうご存知ですか。

司会 はい。写真で。ハウゼという学習院の先生の家でしたね。どうしてマッケーレブの家は注目の的だったのでしょうか。

M それは山口先生と日大の学生さんは夏休み返上でずっと調べてらしたんですよ。ですからあの表ができたんですよ>(*12)

司会 保存運動が起きる前から山口先生はこの注目されていたということですか。

M 残すというか重宝の◎をつけていらした。これはかなり大きいことだと思いますね。

〈住民とマッケーレブのかかわり〉

司会 住民にとっては、ここのどういうところが大事なのでしょう。

M 私にとってはとってもメモリーなところだけでも、それから建築史からも大事な建物って聞いていたわけですね。

Ⅰ コロニアルスタイルってね。大体ここは

ね、牧師さんたちが大勢住んでいらしたわね。お手伝いさんも住んでいらしたしね。私はしょっちゅう遊びにきていました。

M そうそう。皆ここに思い出があるわね。

司会 宣教師館の中に自由に入れたのですか。

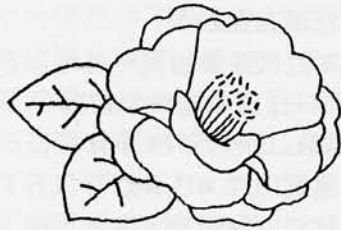
M 家の中じゃなくて外。お庭。そう叔父がこの中に住んでたんですよ。あの2階に。母からおじさんにこのお手紙持っていきなさいと頼まれて2階まで行ったりしました。

I マッケレブ先生は良く家なんかも訪ねていらしたわね。足りないものがあつたりすると貸してくださいとかね。

司会 そういうお付き合いだったのですか。

M 吉田さんっていう左官屋さんもよくマッケレブさんを手伝っていましたね。お風呂の水なんか汲みにきていたそうです

I ご近所の方は色々手伝っていたわね。



〈住民運動に必要なものは〉

司会 運動をしていて何が一番大事だったと思われませんか

I やはりみんなの協力ね。熱意と協力と。

M ひとりじゃなんにもできませんよ。やはりあとスタッフですね。こういうことはあそこに聞きにいけばいいとか、法律はここへ行けばいいとか、専門家がたくさんいらしたことはすごい、ありますね。

I 今だったらどうかしらと思ってしまう。マンションも増えだし、新しい人たちが沢山きてお願いしにくくなってきています。あの頃の方が住民の密着があつて。

M 豊島区役所のほうが驚いちゃったんですよ。雑司ヶ谷ってなんでもハイハイっていうことをきくところ思っていたら、こんなにいろいろ意見を言うところだつて。いままであまり問題がなかったところなんでね。

それに運動するからってお勤め休む訳にいきませんよね。ところが陳情するのは官庁で昼間しかあいていない。だから女性の力っていうのはとても大事なんですね。

I ここは主婦が守ったのよね。



〈キリスト教系大学などの応援〉

M 各方面への陳情書ということで、ミッション系の学校へあなたがやってくださったじゃない。そのことを話してください。

T 先ずICUの中川学長。それから東京女子大の隅谷三喜男先生。

M 文化庁はいっしょにきましたね。

T はいはい。

司会 このリストはコンタクトをとったものですね。

T ただ恵泉の理事長先生からいただいたかどうかは失念いたしました。ICUと東京女子大からは確実に戴いて参りました。それからもうひとつこれは返事がなくて残念なのですが、元アメリカ大使ライシャワーさんです。武田きよこ先生から添文までいただいたのですが、陳情ということでお出ししましたが、その方からいただけていたら大分強かったと思います。でも本当に有難いですね。これだけの人が援助してくださつて。

I 短期間でねえ。

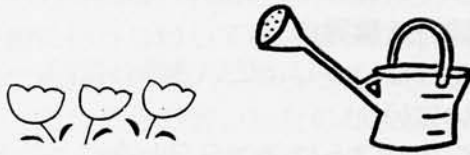
〈お城のようなもの〉

T マンション建設が決まった時、幼稚園の卒園生の一人が、「あっ、あのお城のようなのが壊されちゃうの?」と言ひまして、そうか、幼稚園の子ども達にとっては、大きくなっても此処はお城だったんだと気が付きました。これは子ども達に守らなければとの思いがあの言葉で大きくなりました。子どもにとってよい環境を残していただきたい。

マンションが出来ることによって経済の活性化ということはあつたかもしれませんが。でもそれと較べても、とてもじゃないが手放せないものがあるのではないのでしょうか。例えば木をきるのも同じで、大木を一本切つてしまつたら次の木が育つまでには何十年どころか何百年かかつてしまう。子ども達の中にもお城のようなものがあつて、それが郷土につながっている。子ども達が次の世代に伝えていくことが出来るものを残す。素晴らしいことじゃありませんか。

〈やはりマンパワー〉

T もうひとつ大きかったのは、人的資源でした。主婦達の力は勿論ですが、それを支えた多くの方々がいられます。幼稚園の父母会や、雑司ヶ谷幼稚園と関係のない方々も力になってくださいました。マッキーレブさんが建てたのをご存知の上で、「ヤソは嫌いなんだけれども、守ってほしい」とおっしゃった方がいられ、とても印象に残っています。



〈マッキーレブのメッセージを伝えたい〉

M 今後はマッキーレブさんのメッセージというか精神をあとに伝えたいのです。マッキーレブ先生は伝道のために来られたわけでしょう。骨を埋める覚悟で来たけれど戦争で帰されちゃったんですね。マッキーレブ先生のメッセージがある意味ここで蘇っているのがすばらしいことです。

T この子どもたちは本物に触れることができる、お出かけをしても何をしていても風があり、緑があり、育っていく環境があり本当に恵まれていると思います。

I いい環境で子ども達も幸せですよ。

T 静態保存じゃなく動態保存をお願いしますね。残らなければ語り草で終わってしまう。明治から今に繋がる皆様のお力ですよ。町会というひとつのつながり。幼稚園のつながり。精神的なつながりもありましたよ。私はそれを超えて住民のみなさんがっていうのがすごく大きかったです。

司会 本日はありがとうございました。皆さんの地域へ寄せる熱意がひたひたと伝わってきます。決して大きな建物ではありませんが、雑司が谷宣教師館が地域のランドマークタワーとなるように有効活用を今後とも図ってまいりたいと思います。ご協力よろしく願いいたします。

【注】(*1) 昭和58年2月~10月実施。
詳細は『東京都豊島区立雑司が谷旧宣教師館建物調査報告書』としてまとめられている。

(*2) 昭和59年12月~60年12月実施。
『東京都豊島区立雑司が谷旧宣教師館保存修

理工事報告書』(館内で閲覧できます)

(*3) 平成16年作成

(*4) 1908(明治41)年1月~マッキーレブの帰国まで(1941(昭和16)年)

(*5) 1928(昭和3)年創設。

(*6) 前野まさる東京藝術大学助教授(当時)

(*7) 山口廣日本大学教授(当時)

(*8) 全国町並み保存連盟は1974年に結成されたNPO法人

(*9) 諸橋轍次(1883(明治16)~1982(昭和57)、大漢和辞典を編纂。昭和4年に着手し完成は昭和35年。採録漢字五万字数。

(*10) 秋田雨雀(1883(明治16)~1962(昭和37)劇作家、社会運動家。雑司が谷にゆかりが深く、鬼子母神付近の大門町の町会長もつとめた。

(*11) 1982(昭和57)年11月20日朝日新聞掲載記事「明治の木造洋館ピンチ」~周辺の住民らが保存運動へ~

(*12) 『日本近代建築総覧一各地に遺る明治大正昭和の建物一』日本建築学会編(1980年)日本全国を網羅した5万6千件に及び近代建築を掲載。豊島区内は48件がリストアップされ、◎がついたのは学習院大学北別館(旧図書館)、徳川黎明会、自由学園、立教大学本館、同図書館、同チャペルであり、これらはすべて現存している。

地域史講座「異文化の中で暮らす」のお知らせ

①「宣教師マッキーレブの日本伝道」3月15日
講師：繁国良明氏(元茨城キリスト教学園
中学・高等学校校長)

②「シルクロードの世界」3月18日(金)
講師：鈴木肇氏(元NHKシルクロード取
材団長、中国伝媒大学客員教授)

◆午後1時30分~3時◆参加費：無料◆会
場：本館◆定員：20名◆申し込み：電話(受
付3月5日(土)より先着順)

【編集後記】

旧マッキーレブ邸を守った人達は、建物の保存もさることながら貴重なまちの語り部です。地域に住むひとりひとりが語り部となり、街の歴史を語り継いでいきましょう。次はあなたのなしをお聞かせください。(文責浜地)